

# 東海などで改善、関東甲信越などは悪化～物価高・海外経済の動向が引き続きリスク

2023年4月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

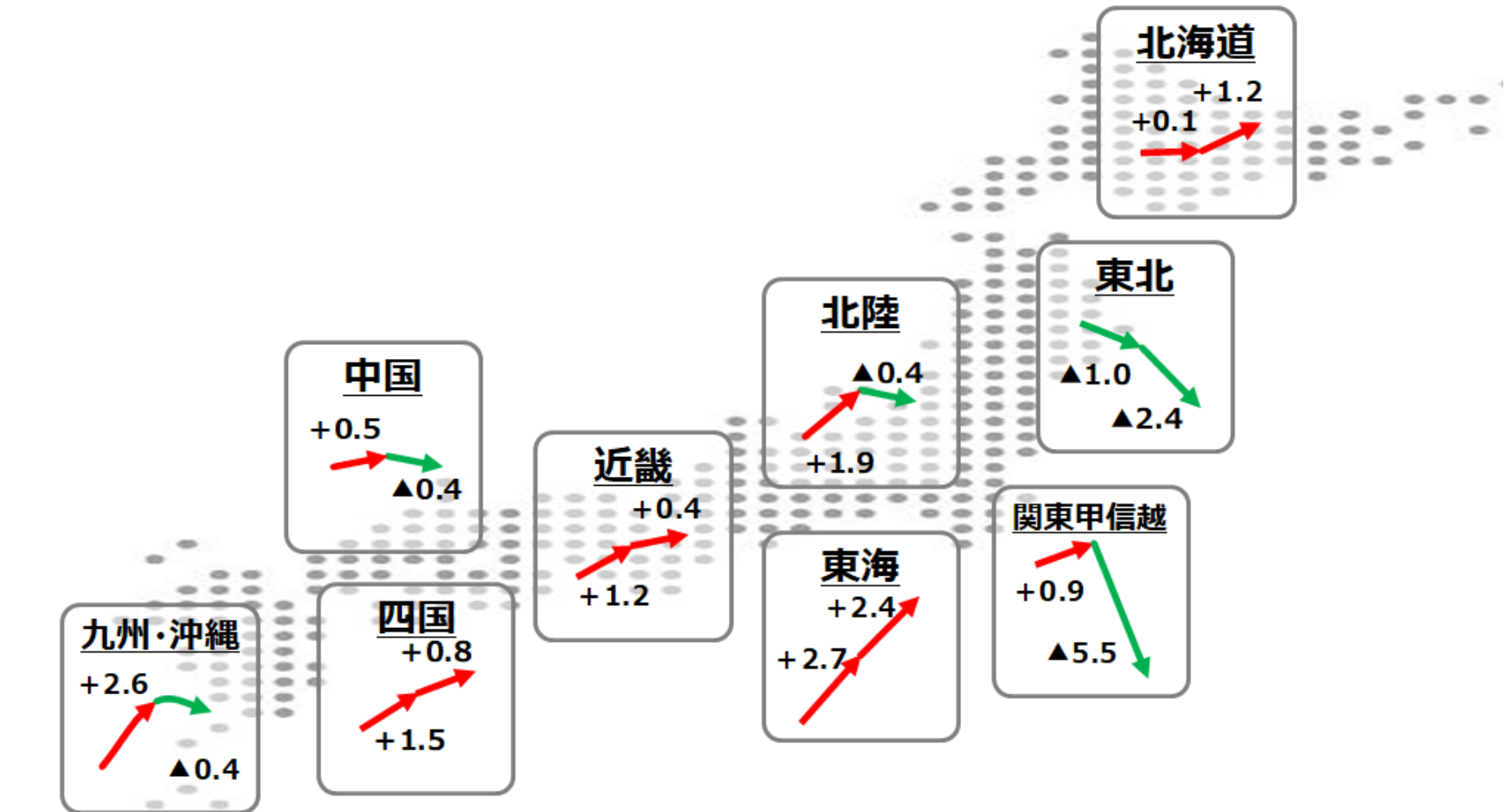
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄  
研究員 中田 理恵

## [要約]

- 2023年4月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東海」など4地域で改善したが、生産などの企業関連の項目が悪化したために「関東甲信越」など5地域では悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、一部の地域で物価高の影響によりスーパー売上高の増勢が鈍化しているが、全国的な旅行支援やインバウンド再開、供給制約の一層の緩和による乗用車販売の持ち直しなどがあり、「東北」を除く全地域で消費が改善した。特に「北陸」「九州・沖縄」では百貨店売上高も着実に持ち直しているようだ。一方、資材価格などに起因する住宅価格の高騰によって、住宅投資は「北陸」などでやや悪化している。そうした中、雇用・所得環境については前回から大きな変化はない。引き続き労働需給はタイトであり、賃上げに動く企業も多いようだ。企業関連では、「東海」「北海道」のように自動車関連を中心に生産・輸出などが改善している地域も見られるが、海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けて、多くの地域で生産や企業マインドなどが悪化している。例えば、「関東甲信越」「北陸」「東北」「九州・沖縄」「中国」では、生産用機械や電子部品・デバイスなどの業種で生産が弱くなっている。「関東甲信越」「九州・沖縄」では輸出も3カ月前と比べて悪化している。地域別の短観を見ると、素材や宿泊・飲食サービスなどで企業マインドが悪化している地域が多いようだ。公共投資の動向には特に変化はなかった。
- 非製造業は国内の物価高の影響が見られるが、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の減少や感染症法上の5類移行の発表、インバウンドの増加、賃上げの広がりなどで改善傾向にある。しかし、製造業は海外景気の後退懸念の高まりから景況感の悪化が見られる。暫くは国内要因のプラスと海外要因のマイナスが拮抗する状態が続きそうだ。今後は、物価高の影響は懸念されるものの、良好な所得・雇用や内需回復が継続して、消費は引き続き改善していくものと考えられる。一方、海外景気の後退による生産・輸出の下振れリスクには注意が必要だ。地域経済は緩やかな回復基調が続くと考えられるが、国内外の需要を押し下げるリスクとなる、賃上げのペースを上回るようなさらなる物価高や海外景気の後退といった不確実性について、暫く注視していく必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

## 大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (22年10月→23年1月、23年1月→4月)



(注1) 各地域の数値は、2022年10月から2023年1月の変化幅と2023年1月から4月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

## ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（23年1月→4月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+1.2	赤	白	白	赤	白	
東北	▲2.4	白	白	白	緑	緑	
北陸	▲0.4	赤	緑	白	緑	緑	
関東甲信越	▲5.5	赤	白	緑	緑	緑	
東海	+2.4	赤	白	白	赤	緑	
近畿	+0.4	赤	白	白	赤	緑	
中国	▲0.4	赤	緑	赤	白	緑	
四国	+0.8	赤	白	白	赤	白	
九州・沖縄	▲0.4	赤	白	緑	緑	白	

(注1) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与度が大きく、「緑」が濃いほどマイナス寄与度が大きい。主要な分野を記載。

(注2) 近畿の生産・輸出、四国の生産ではさくらレポートの文章表現と地域AIモデルの判断結果に今回は乖離が生じている。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

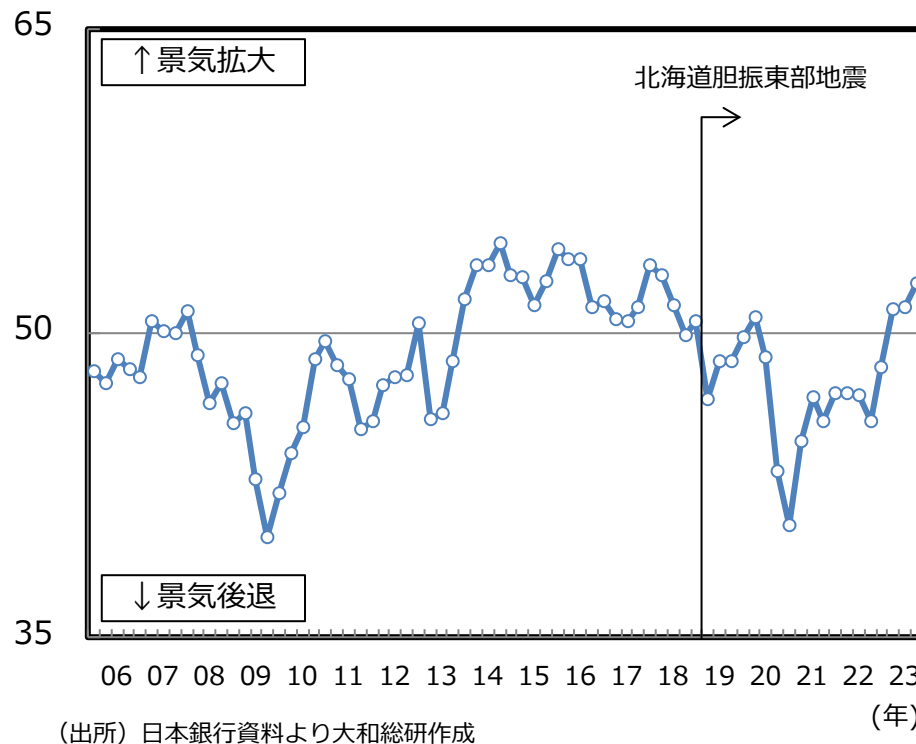
## 大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (23年1月→4月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した (23年1月 : 51.3 →4月 : 52.5)。消費や生産、輸出の判断が改善したことでインデックスは上昇した。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した (23年1月 : 50.5 →4月 : 48.1)。企業マインドや生産などの判断が悪化しインデックスは低下した。
北陸	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した (23年1月 : 51.1 →4月 : 50.7)。消費が改善した一方で、企業マインド、生産、住宅投資の判断が悪化したことでインデックスは低下した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した (23年1月 : 52.1 →4月 : 46.6)。消費が改善した一方で、生産、企業マインド、輸出などの判断が悪化し、インデックスは大幅に低下した。
東海	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (23年1月 : 49.7 →4月 : 52.1)。企業マインドが悪化したものの、生産が力強く改善したほか、消費も改善が見られ、インデックスは上昇した。
近畿	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した (23年1月 : 50.3 →4月 : 50.7)。企業マインドが悪化した一方で、消費や住宅投資が改善したことでインデックスは上昇した。
中国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した (23年1月 : 51.1 →4月 : 50.7)。消費などでは改善が見られたが、企業マインドや住宅投資などの悪化でインデックスは低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した (23年1月 : 50.5 →4月 : 51.3)。消費などの判断が改善しインデックスは上昇した。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した (23年1月 : 53.9 →4月 : 53.5)。消費が改善したものの、生産や輸出などの判断が悪化しインデックスを押し下げた。

## 北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した（23 年 1 月：51.3 →4 月：52.5）。
- 消費や生産、輸出の判断が改善したことでインデックスは上昇した。
- 消費では供給制約の解消に伴って乗用車販売が改善したほか、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行発表などに伴って観光も緩やかに持ち直している。また、生産では輸送機械において、輸出では食料品を中心に改善している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



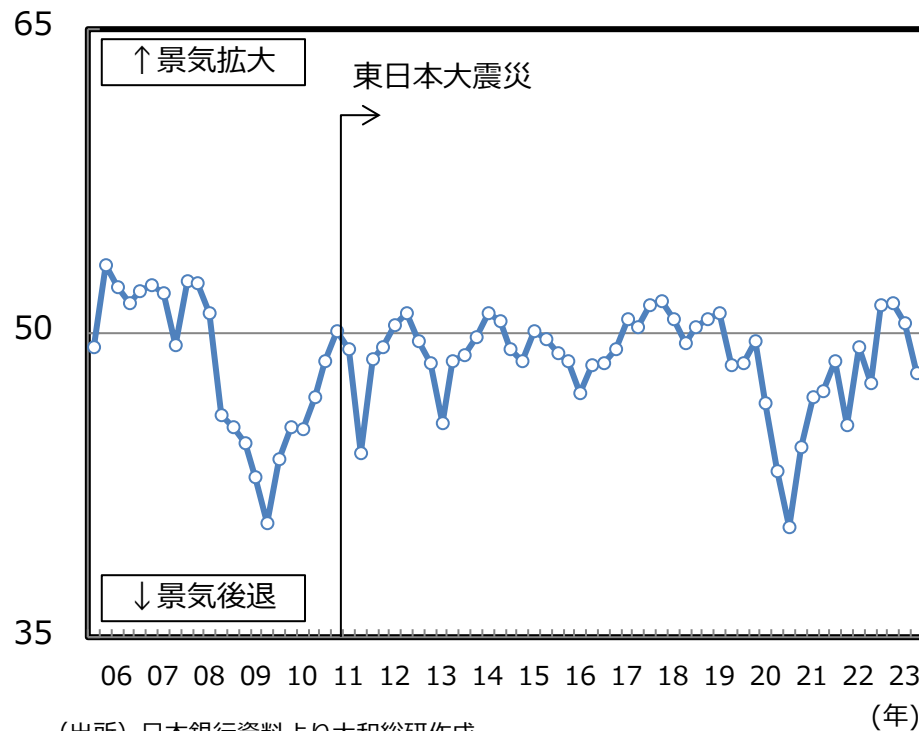
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費】	↑
緩やかに持ち直している	緩やかに増加している
【生産：輸送機械】	↑
横ばい圏内の動きとなっている	持ち直しつつある

## 東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した（23 年 1 月：50.5 →4 月：48.1）。
- 企業マインドや生産などの判断が悪化しインデックスは低下した。
- 生産では生産用機械が弱含んでおり、海外経済の減速や半導体需要の低下が影響したとみられる。企業マインドは非鉄金属や鉄鋼といった素材や宿泊・飲食サービスなどで悪化している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



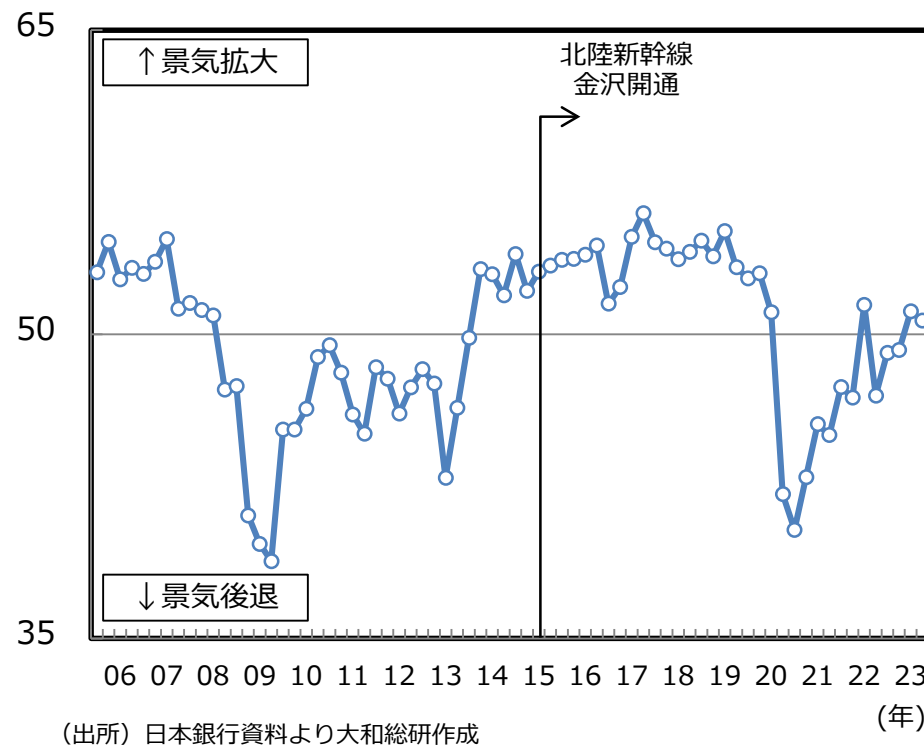
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	↓
緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	悪化している
【生産】	↓
一部に弱さがうかがわれるものの、総じてみれば持ち直し基調にある	持ち直しの動きが足踏みしている

## 北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した（23 年 1 月：51.1 →4 月：50.7）。
- 消費が改善した一方で、企業マインド、生産、住宅投資の判断が悪化したことでインデックスは低下した。
- 消費では百貨店・スーパーなどの売上高や乗用車販売、旅行取扱など幅広い分野で改善が見られた。一方、住宅投資は資材価格などに起因する住宅価格高騰などが押し下げ要因となったとみられる。

### 大和地域 AI インデックスの推移



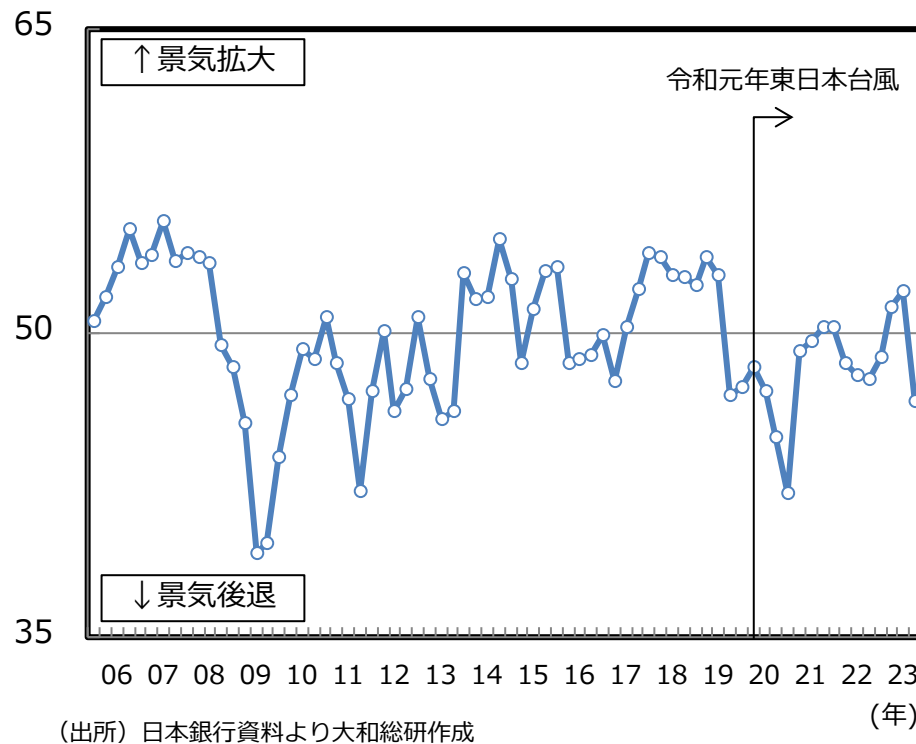
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【消費】	↑
持ち直している	着実に持ち直している
【住宅投資】	↓
弱めの動きがみられている	減少している

## 関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した（23 年 1 月：52.1 →4 月：46.6）。
- 消費が改善した一方で、生産、企業マインド、輸出などの判断が悪化し、インデックスは大幅に低下した。
- 3 カ月前に増加基調であった生産は、海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けて汎用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に横ばい圏内の動きとなった。輸出についても増加基調から横ばい圏内に転じている。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

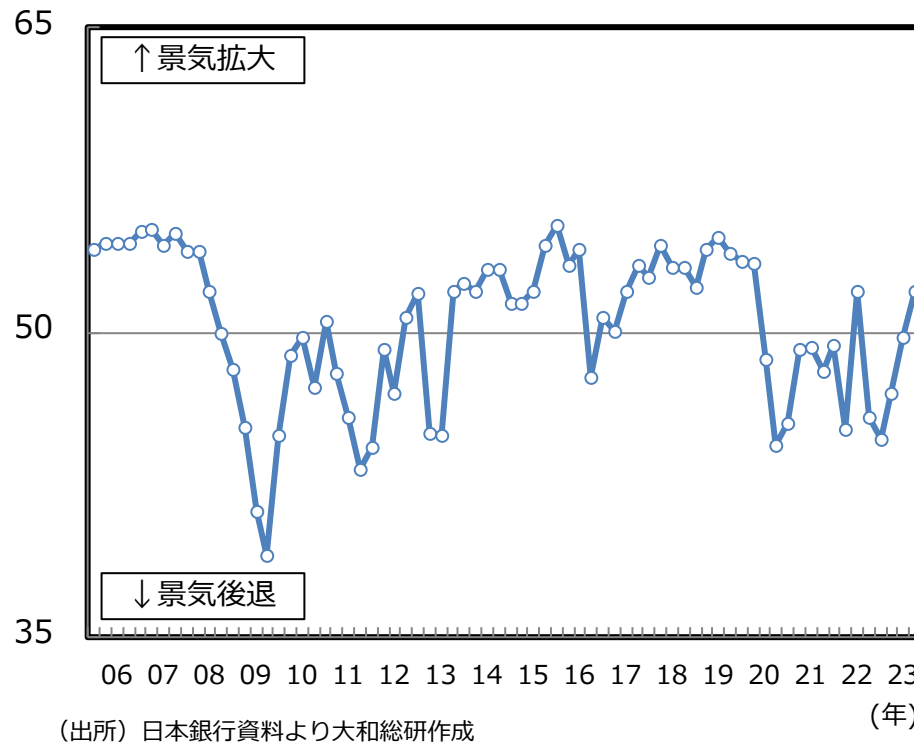
23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
感染抑制と経済活動の両立が進むも とで、持ち直している	資源高の影響を受けつつも、 感染症の影響が和らぐもとで、 持ち直している
【生産】	↓
供給制約の影響が和らぐもとで、基 調として増加を続けている	海外経済の回復ペース鈍化の影響を受け つつも、供給制約の影響が和らぐもとで、 横ばい圏内の動きとなっている
【企業の業況感】	↓
改善している	小幅に悪化している



## 東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（23 年 1 月：49.7 →4 月：52.1）。
- 企業マインドが悪化したものの、生産が力強く改善したほか、消費も改善が見られ、インデックスは上昇した。
- 部品の供給不足の影響が和らいだことを背景に、生産は自動車関連を中心に改善した。また、完成車の供給回復に伴って、消費は乗用車販売を中心に改善した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



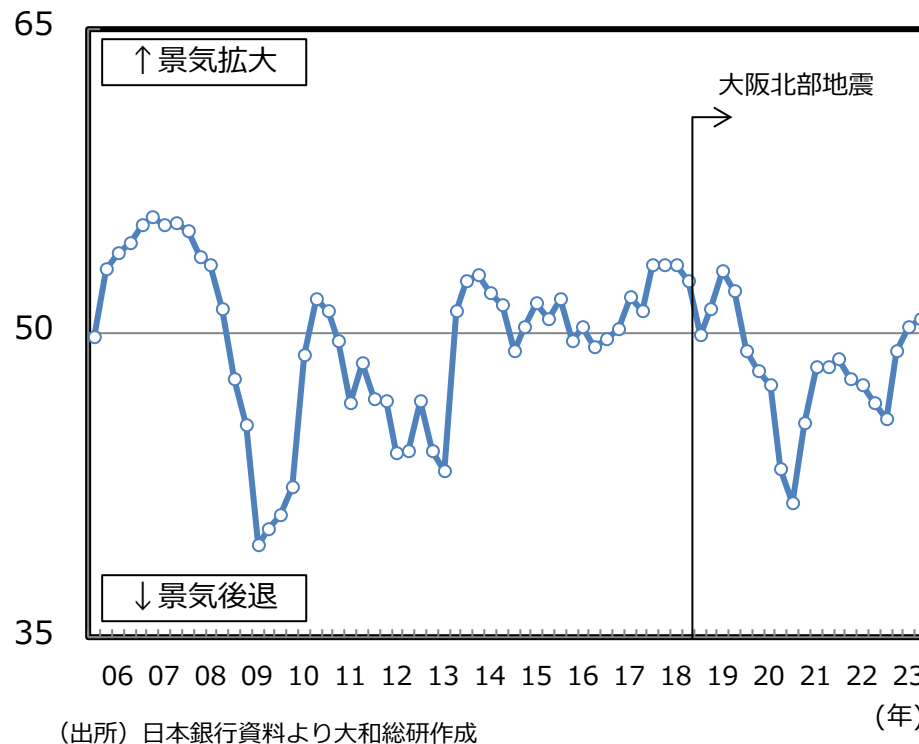
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	↑
横ばいで推移している	緩やかに持ち直している
【生産】	↑
自動車関連の部品供給不足の影響が継続するも、足踏み状態となっている	自動車関連の部品供給不足の影響が徐々に和らぐも、緩やかに持ち直している
【消費】	↑
一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している	緩やかに持ち直している

## 近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した（23 年 1 月：50.3 →4 月：50.7）。
- 企業マインドが悪化した一方で、消費や住宅投資が改善したことでインデックスは上昇した。
- 企業マインドは化学、鉄鋼、非鉄金属などで悪化している。住宅投資は住宅価格の高騰から中間所得層の購入意欲が低下している一方、円安の下で海外投資家が都市部の物件を購入する動きが引き続き見られているようである。

### 大和地域 AI インデックスの推移



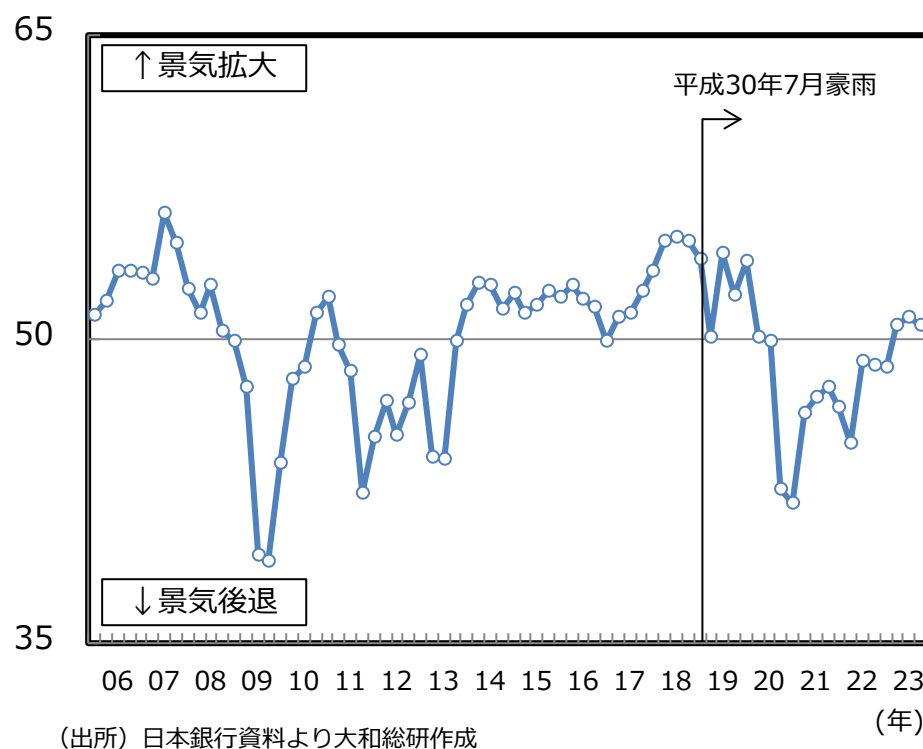
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるものの、感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している
【消費】	↑
感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、総じてみれば緩やかに増加している	感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、緩やかに増加している
【企業の業況感】	↓
非製造業を中心に改善している	製造業は悪化している一方、非製造業は改善している

## 中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した（23 年 1 月：51.1 →4 月：50.7）。
- 消費などでは改善が見られたが、企業マインドや住宅投資などの悪化によりインデックスは低下した。
- 生産では海外需要の鈍化を受けて汎用・生産用・業務用機械や電子部品・デバイスなどが悪化した。一方、消費は乗用車販売においてやや改善している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



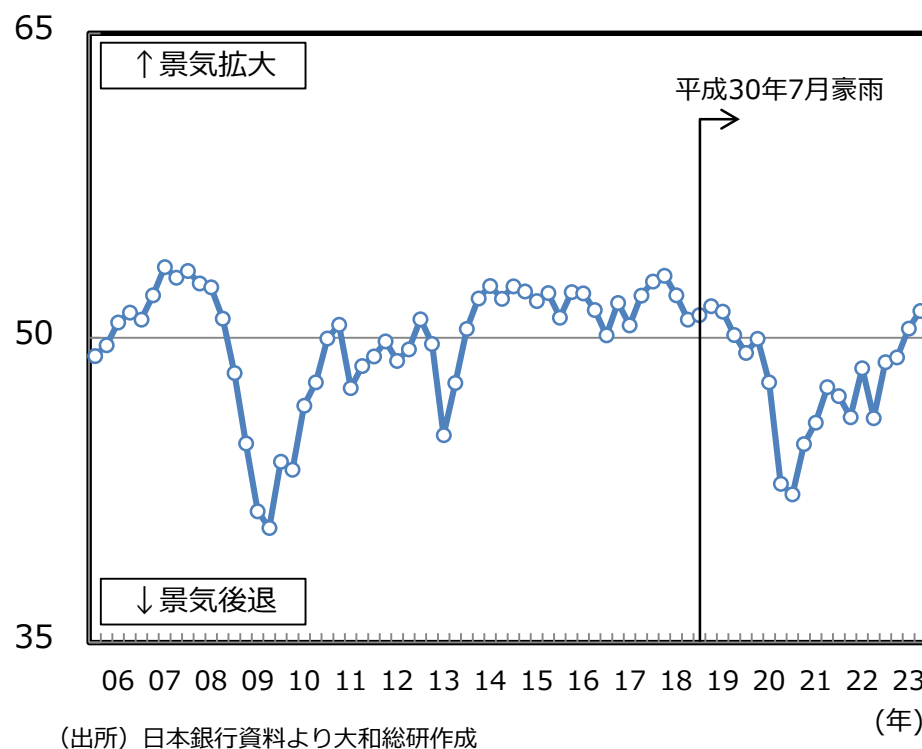
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
小幅に改善している	幾分悪化している
【消費】	↑
持ち直しつつある	持ち直している

## 四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した（23 年 1 月：50.5 →4 月：51.3）。
- 消費などの判断が改善しインデックスは上昇した。
- 消費では乗用車販売が供給制約の緩和に伴って緩やかに持ち直している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



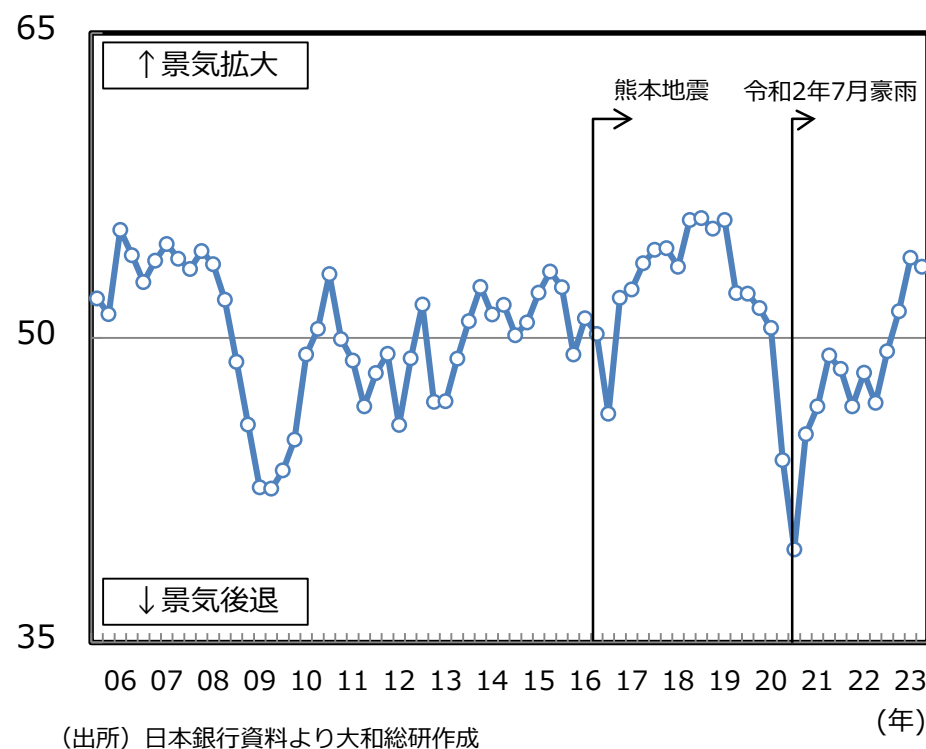
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費：乗用車販売】	↑
横ばい圏内の動きとなっている	振れを伴いつつも、 緩やかに持ち直している
【住宅投資】	→
弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている

## 九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した（23 年 1 月：53.9 →4 月：53.5）。
- 消費が改善したものの、生産や輸出などの判断が悪化しインデックスを押し下げた。
- 消費ではインバウンド消費の回復や完成車の供給回復に伴って、百貨店売上高や旅行・観光関連、乗用車販売などの幅広い分野で改善が見られた。一方、生産や輸出では自動車関連などで一部弱めの動きが出ている。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 1 月	23 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【消費】	↑
持ち直している	着実に持ち直している
【生産】	↓
持ち直している	横ばい圏内の動きとなっている

## 本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2023年4月20日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

[https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713\\_012142.html](https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html)

## 大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

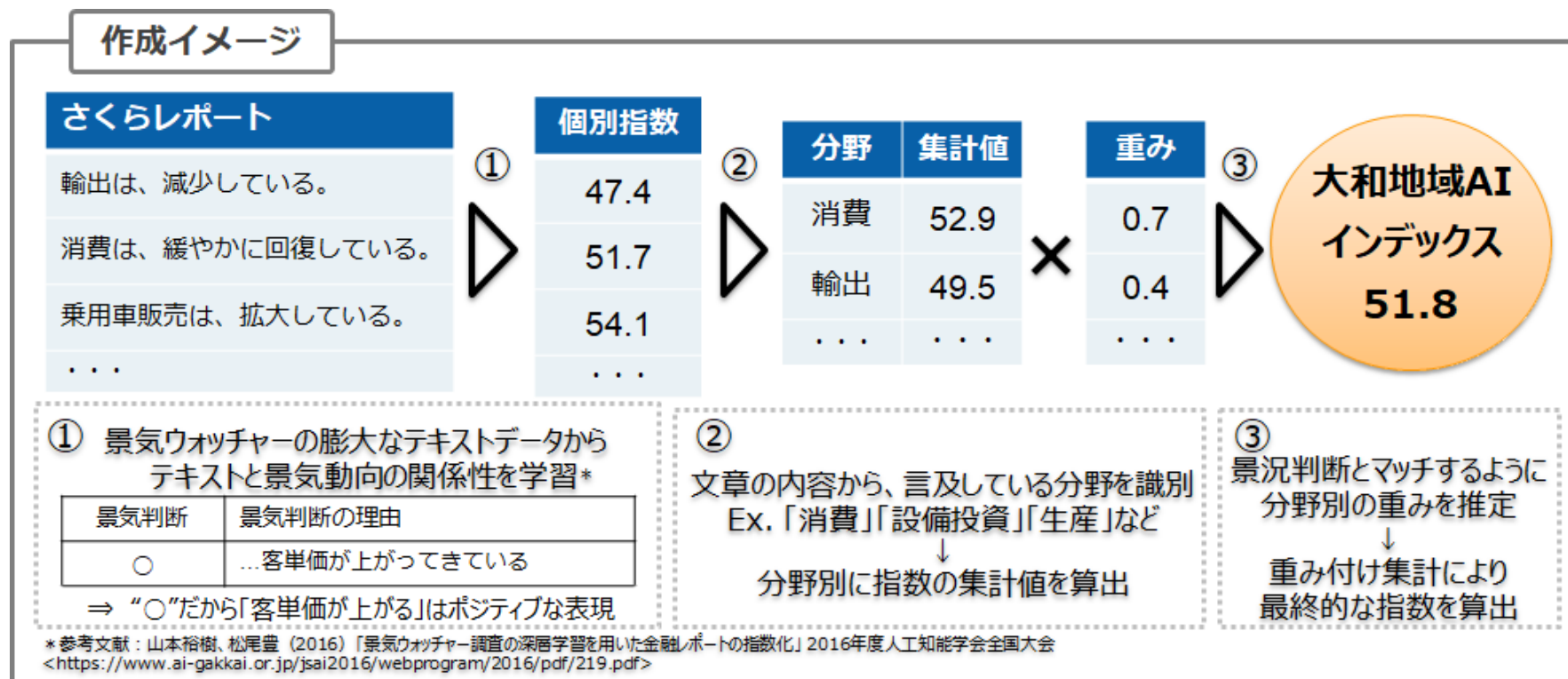
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



## 日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成